



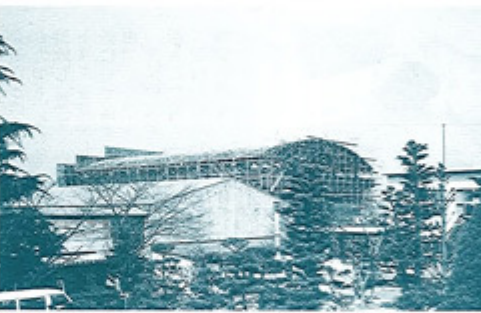
この道はいつかきた道
母校の歴史を見続けて…

京都教育大学附属 桃山中学校略史と 同窓会の活動記録

母校は平成九年創立五十周年を迎えるに当たり、記念事業として昨年末より体育館建設に着工、六月中旬の完成を目指している。校地内南西隅に位置し、ドーム型の屋根を持つ二階建てである。高さ十五・八米、間口(南北方向)二十六米、奥行(東西方向)三十五・〇八五米、敷地面積約二七八坪である。一階は多目的ルームとクラブボックスなどがあり、二階が体育館で、式典行事の際には舞台がせり上がり

創立50周年記念事業 体育館完成間近!!

り講堂として使われる。内部は全体にベージュ系の色調でまとめられるとのこと。同窓会では次回の「つゆ草の集い」をこの新しい体育館で開催し、卒業以来母校を訪ねる機会が無かった同窓諸兄姉に是非学びの地で旧交を暖めて頂きたいと考えている。



■南校舎から見た建設中の体育館

体育館使用については既に中学校の内諾を頂いているので、ご案内をお待ちください。

附属桃山中学校 創立五十周年 記念品寄贈について

会員の皆さまには平素より同窓会活動にあたたかいご支援とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。母校の進取の気風と年齢を越えた交流の伝統は、これを良しとする同窓の皆さまに守り育てられ、回を逐って盛んになる同窓会「つゆ草の集い」に花開くように存じます。

同窓の皆さまにおかれましては、この度の記念品寄贈の決定に心からのご賛同いただき、併せて母校と後輩のために、なにとぞできる限りのご協力を賜りたく伏してお願ひ申し上げます。

同窓生各位

会長 辻 絢子
十期(一九五八年)

【激動の時代】

昭和22年(1947年)

4月 6・3制の施行により、京都師範学校女子部附属小学校高等科2年1学級を京都師範学校女子部附属中学校に移行、新1年2学級を加えて発足。校舎は附属小学校内に仮寓。小学校教員が指導に当たる。

昭和23年(1948年)

4月 全学年が揃い、飯塚では狭い為、師範学校内の南側道路沿いのバラック教室を借用。専任教員5名着任。師範学校教員、小学校教員を講師として授業を行う。

昭和24年(1949年)

3月 第1期生44名卒業。
4月 1日同窓会会則制定。
5月 国立学校設置法施行により、京都師範学校は京都学芸大学に昇格。大学設備計画に伴い、附属中学校は立ち退きを迫られる。

昭和25年(1950年)

1月 校舎問題を憂え、当時の富田要人中学校育友会長、田原留吉小学校育友会長が奔走し中学校建設後援会(京都学芸大学桃山附属学園校舎建設後援会)が組織される。会員は幼稚園、小学校、中学校の児童の600家庭。
8月 用地を桃山福島太夫北町(現竹妻養学校)に選び、新校舎地鎮祭起工式を行う。
9月 同窓会として映画会開催。
11月 同窓会誌発行。

昭和26年(1951年)

2月 第1期工事完成、新校舎に移転。4月国立学校設置法の一部改正施行により校名を京都学芸大学附属桃山中学校と改称。
11月 同窓会映画会

昭和27年(1952年)

3月 第2期工事完成
8月 第3期工事完成
9月 同窓会映画会

昭和28年(1953年)

2月 全校舎落成式挙。3期工事まで要し費用約1700万円のうち国費700万円、父兄寄付金1千万円。
5月 同窓会映画会

昭和30年(1955年)

3月 同窓会映画会と同志社マンドリンクラブ演奏会

昭和31年(1956年)

5月 同窓会映画会、名簿作成。
10月 京都学芸大学、伏見区藤森に移転決定。跡地に中学校校舎移転問題起こる。

昭和32年(1957年)

4月 現校地に移転。
7月 同窓会新聞発行。

第10号
京都教育大学教育部
附属桃山中学校
同窓会々報
発行人 会長 辻 絢子
京都府伏見区桃山井伊塚町16
TEL. (075) 611-0264-5

校歌

森正一作詞 阪井武彦作曲

千歳の山河 展覧して
桃山の丘麓 照り明る。
われらが 学び舎。
高き 理想
日々々に 新に。
燃ゆる息吹も 逞しく
明日の文化を 担うまで

朝々の緑に 留して
桃山の丘麓 鳴り響む。
われらが学び舎。
重き 使命。
直く 明るく、
力協せて 静かに
世の福祉を 果たすまで。

「朝露にぬれて」

同窓会から寄贈される緞帳は川島織物で制作される。川島織物では既に昭和五十五年教育大学、同六十年附属松山小学校の緞帳を制作され、関わりの深い所である。

制作に先立つて必要なデザインは中学校の依頼で十期の辻純子さんにきまっていた。「小ぞく」への深い思いをつゆ草に託して、母校のために厳しい時間制約のなか、異やかで力強い作品を完成させていただいた。写真では色彩を見ていただけないのが残念である。



緞帳

「朝露にぬれて」

デザイナーの意図

川島織物で緞帳の出来上がるまでの工程を見学させていただいた

デザイナー 辻 純子

き、緞帳に関わる糸の種類、染色法、綴手織の工程等の詳しい説明を受け、これを念頭にデザイン作成に取り組みました。

体育館とはいえず、一階には多目的ルーム、クラブボックス等が設置され、二階は平常は体育館として使用し、式典のときには舞台がせり上がり講堂としての装飾的な性格と、若人が学び活躍する場所柄から創造性も求められます。加えて大きな面積を占めながらも管内の雰囲気（壁の色、床の色、椅子の色、舞台の色、照明の色）にとけ込め、照明の下で眺めるということも計算し、デザイナー、織表現を考えました。

私の頭の中で附属という言葉からは「つゆ草」が離れず、それをベースに、若人を表す「希望」「未知」「追及」「輝き」「和」の言葉のイメージカラーを重ね、ほかしの手法で構成しました。

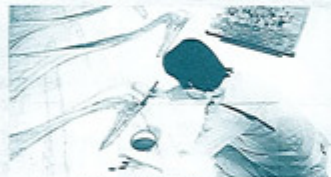
川島織物の特徴である綴手織緞帳は絵画的な表現が可能であるという点で思い通りにデザインすることが出来ました。

緞帳制作の川島織物をたずねて...

「日本人の質問」というTV番組がある。それに習って、草とどう違うのか緞帳制作の専門、川島織物を三月二十一日左京区南原を訪ねることにした。勿論単純な疑問を解くためだけでなく、同窓会から母校に寄贈する「緞帳」について同窓諸兄弟に関心を持っていただけそうなものが何かないか、聞いてみよう、見てみようと考えたからである。

お話しを伺い、工場を案内してくださったのは、川島織物工業本部制作部担当部長の島田さんである。温厚な島田部長はまず一八四三年初代、川島長兵衛氏、兵衛番匠創業以来の歴史を、誇りを持って話して下さいました。全国の主だった劇場、ホール、会議場、会館などの緞帳を一手に制作してこられたのも、既に明治十九年に二代目が渡欧し、数多くのヨーロッパのタペストリーを見学し、緞帳の大制作を可能にして以来の歴史と技術の成果の由。

会社の歴史、緞帳の制作の概略をお聞きした後、二万坪の敷地内の工場をご案内いただいた。紙面の都合上、緞帳制作のポイントだけを紹介します。



① 織下絵
デザイナーの作品ができるまで、それを元に、織物の原寸大に拡大した克明な織下絵を作成。織物は裏側から織るため、左右反対の絵を描き、それに色分け、ボカシなどの織表現を詳細に書き込む。

② 原画のイメージと織り上げの効果を十分に考慮しながら、慎重に仕様・色彩の選定を行い、決定した色番号を直接下絵に記す。一つの緞帳に使用する色彩数はデザイナーにより数千色にも及ぶことがある。



③ 製織
緞帳の下に敷かれた織下絵の指示通りの番号の染め糸を一本づつ糸糸にくぐらし、指先で掻き寄せ、指で締めゆく。



④ 二十二米×六米の緞帳を制作中。単純な部分や複雑な部分があるため、制作速度は一定しない。六十センチ程織り揃うと巻き取る。縦糸の上げ下げは各自の持ち場ごとにペダル操作でする。

⑤ 約一万本の縦糸の列

⑥ 織り上がった緞帳は広げられ、接着剤を使って天然木綿で裏打ちがされる。上端は三センチ間隔の返し縫いで縫い付けられる。一見堂屋さんの作業の様な感じで男性が一針づつ麻糸でしっかりと縫い進めていく。更に二五センチ間隔でパイプに結び付ける木綿のテープが、縫いつけられ、裾には化粧裂が縫いつけられる。

⑦ 掃除機で掃除（緞帳の上を歩ける最後のチャンス）
綴手織は、爪の芸術、とも呼ばれ、露指の爪で糸を一本ずつき寄せて織り進んでいきます。

以上制作過程を駆け足で見えてきたが、爪で織る繊細な綴手織に比べると自由な素材と、専門技術とチームワークによるスケールの大きい作業から作られる手織緞帳は、ダイナミックなエネルギーに溢れ、同窓会から若い世代に贈る記念品としてふさわしいと感じた。

（純 尾）
染色に必要な水は鞍馬川から取って浄化し、使用後は通過し川に戻している由。

担当 8期 原

緞織緞帳の制作過程

緞帳あれこれ

工場見学の後、緞帳に関係のあるお話しを色々お尋ねした。

「緞帳といえは向らん豪華なものです、江戸時代には緞帳芝居と言って、低く見られていました。」

「何に対してですか？」

「じょうしきまく、です。」

「正式幕は大劇場の歌舞伎の舞台に使われる黒、柿色、萌黄(あるいは白)の三色の緞帳の引き幕のことで、幕府公認の劇場にだけ用いられていたもの。それ以外では引き幕は許されず、現在の緞帳形式の垂れ幕を使っていました。そのため、下等な芝居、下手な芝居の意味で緞帳芝居と言いました。今では、舞台の必需品で装飾として重要なものです。」

「ところで緞帳の織り方は？」

「緞織、填糸織と120cm幅の緞帳用製地を継ぎ合わせて仕立てる方法の三種の方法があります。緞織は織り方としては単純な平織りですが、デザインの効果を図通し表現出来る特長があります。横糸は軽く、染色が自由に出来、経済的なレイヨン、縦糸は100m程度までは木綿糸、それ

以上は麻糸(伸び縮みしないので)です。タコ糸より少し太目で径0.5mmの糸を3.3cm幅の中に15本並べて。」

「(2)の骨きりと同じ)」

「4本づつ上げ下げし、これは機械でやりますが、裏打ちの布のはき合わせにミシンを使う以外は全部手仕事です。裏打ち布を縫いつけるのも、縁かがりもです。附属中学の緞帳は10m×6m程ですが、完成まで三ヶ月程かかります。ですから制作費用の内、人件費が一番高く、運送費や緞帳を舞台に吊る費用も大きいのです。出来上がった緞帳は防炎加工をしたあと、何人もかかって巻き上げ、クレーンでトラックに積み込みます。」

「あの1幅が30mもある場合は(トラックからはみ出す)？」

「短い幅の方で巻きます。(悪問でした)現地でもまたクレーンで下ろし、緞帳上部に25cm間隔で縫い付けられた木綿テープで鉄パイプに結び付け吊り下げ、と言った作業があります。」

「吊り下けると言っても重いもの、200mで1屯、重いようですが耐えられるのでしょうか？」

「300mで300kg程、1mで45kg程程度になります。1m幅に45kg程の糸が通りますから、1本の糸では70kg程の重みしかかかりません。」

「よくわかりました。手間のかかった緞帳を長持ちさせる方法がありますか？」

「紫外線を避け吊り下げたままの状態なら30年は持ちます。巻き上げる回数が多いれば傷みは早いです。厚みが一定でないで部分的に負担が掛かります。」

「どんな修理が掛かりますか？」

「照明器具が近過ぎて焦げるとか、裾に入っている鉄パイプが何か引っ掛ける、など緞帳自体の問題より使い方のトラブルが多いですね。」

「古くなった緞帳はどうするのですか？」

「ほとんど廃棄焼却されます。」

「もったいない、(聞かなければよかった)でも三十年もてば上出来!!)」

「今日は、お忙しいところ、本当にありがとうございました。」

「今日は、お忙しいところ、本当にありがとうございました。」



緞帳織機の製作

同窓会復活第一回総会

都ホテル 参加202名



【施設拡充の時代】

- 昭和33年(1958年)
 - 2月 国道24号線拡張工事のため、校地東側一部を建設省に移管。補償として特別教室、東側フェンスを完備。
 - 6月 同窓会総会、講演会。会費150円、64名参加。
 - 昭和34年(1959年)
 - 6月 名簿作成
 - 昭和35年(1960年)
 - 6月 同窓会総会、楽団演奏。東山園、会費200円、参加101名。
 - 昭和37年(1962年)
 - 6月 同窓会すき焼きパーティ
 - 7月 木造旧校舎解体、新校舎起工。
 - 昭和38年(1963年)
 - 2月 鉄筋2階建新校舎完成。
 - 4月 特殊学級開設、専任教員1名生徒7名で発足。
 - 7月 体育館兼講堂着工
 - 昭和39年(1964年)
 - 2月 体育館兼講堂竣工
 - 3月 校歌制定、披露。
 - 4月 特殊学級校舎竣工。
 - 昭和40年(1965年)
 - 4月 特殊学級完成。
 - 昭和41年(1966年)
 - 4月 校名を京都教育大学附属桃山中学校と改称(国立大学設置法一部改正)
 - 昭和42年(1967年)
 - 4月 1学年は1学級増設。校章を一部変更、通学服を制定。名簿作成。
 - 6月 創立20周年。時計台建設。同窓会から花束贈呈。
 - 昭和44年(1969年)
 - 2月 校舎増築完成。
 - 4月 9学級となる。附属養護学校設立に伴い、特殊学級を分離。
 - 9月 プール竣工。
 - 昭和46年(1971年)
 - 同窓会から卒業式に花束贈呈恒例化。
 - 昭和50年(1975年)
 - 4月 婦女子教育学級開設。
 - 昭和51年(1976年)
 - 11月 婦女子教育学級校舎完成。
 - 昭和52年(1977年)
 - 創立30周年記念式典並びにピアノ園き音楽会挙行。
- 【同窓会活動本格化】
- 昭和53年(1978年)
 - 8月 同窓会復活第1回総会が都ホテルで開催。会費6000円参加202名。
 - 昭和54年(1979年)
 - 7月 同窓会報「つゆ草」創刊号3500部発行。
 - 昭和56年(1981年)
 - 8月 第2回同窓会総会、センチュリーホテル。参加数115名。
 - 昭和58年(1983年)
 - 5月 「つゆ草」第2号名簿に併載
 - 8月 第3回同窓会総会、グランドホテル参加数149名。
 - 昭和60年(1985年)
 - 3月 特別教室南棟完成。この頃迄にグラウンド等の設備の充実、改修が相次いで行われる。



【新しい時代の始まり】

昭和61年(1986年)

- 4月 婦女子女学級と3年生普通学級との混合編成試行(国際理解教育の充実にテーマに)
- 6月 「つゆ草」第3号4500部発行。
- 8月 第4回同窓会総会、新都ホテル。参加数100名。

昭和62年(1987年)

- 3月 数学教室にパソコン42台設置。
- 6月 創立40周年、校旗新調。
- 7月 「つゆ草」第4号5000部発行。
- 12月 47期まで掲載の名簿発行。

昭和64年(1989年)

- 1月 7日元号平成に。

平成元年(1989年)

- 4月 1学級定員実施。「つゆ草」第5号5000部発行。
- 6月 第5回同窓会総会、グランドホテル。会費1万円、参加数134名。

平成2年(1990年)

- 11月 「つゆ草」第6号5300部発行。

平成3年(1991年)

- 同窓会会員宛名タックシール作成。

平成4年(1992年)

- 4月 「つゆ草」第7号5850部発行。同窓会名簿発行。
- 6月 同窓会総会(10期夏目さんの歌曲独唱)新都ホテル。会費1万円参加数195名。

平成5年(1993年)

- 11月 「つゆ草」第8号6000部発行。

平成7年(1995年)

- 1月 17日 阪神淡路大震災。
- 2月 評議委員会で同窓会の名称を「つゆ草の集い」と決定。
- 4月 「つゆ草」第9号6000部発行。
- 6月 「つゆ草の集い」(第7回同窓会)パークホテルで開催。(11期渡辺さんの講演、15期横井さんのカンフォート、16期宮門さんのシャンソンの会費1万円参加数194名。

平成8年(1996年)

- 2月 同窓会評議委員会で中学校創立50周年記念として綴帳の寄贈を決定。
- 6月 体育館竣工予定。



1995年6月3日パークホテル 第7回総会つゆ草の集い 194名の参加



運路相が誕生したせいか和食が好まれる傾向に…

【つゆ草の集い】
 「同窓会、初めて来たけど、来て良かった、また来ます。」幹事一同に一番嬉しい言葉が聞けました。
 そして各界で活躍する同窓生の協力で楽しく、心嬉しい一時が思い出に残りました。
 その一端を写真でご紹介します。

16期 宮門喜子さん(シャンソンのライブハウスにレギュラー出演)は軽やかに会場をぬってシャンソンを歌う。



15期 横井省吾さん(NTT大阪支店長)は素晴らしい声でカンフォートを披露。後輩からの花束を受ける



講演「活断層を診断する」

11期 渡辺邦彦さん(京都大学防災研究所附属地震予知センター助教授)

阪神淡路大震災の後だっただけに一同真剣に耳を傾け、結局「地震予知は嘘に…」の話で却ってほっと。本当に分かったら怖いと言う思い?

クイズ出題者の橋本先生から全問正解の賞状を授与される3期順子さん



綴帳寄贈についてご協力をお願いいたします。

環望のためによろしく
 お願いします!



母校創立五十周年記念に綴帳を寄贈するに当たり、その制作費用は、同窓生諸兄姉にご負担をお掛けすることになり誠に申し訳ございません。

制作費用は約7百万円で、単純に計算すると同窓生5700余名で一人当たり1300円程のご負担になります。そこで母校のために1口1000円以上のご協力をお願い出来ないでしょうか。

どうかよろしくお願い申し上げます。
 会長 辻 純子

.....記.....
 1口1000円(同封の振込用紙をお使い下さい)
 30歳以上の方は複数口でお願い出来たら幸いです。
 振込期間：5月末日まで

編集後記..
 経験年齢
 悪筆不問。
 給与無し。
 自薦他薦共に辻会長迄。
 編集担当8期 原悦子

次期編集長大募集